

□ 吹奏楽

中 橋 愛 生

2021年も前年に引き続き新型コロナウイルス感染症の影響で困難ななかでの音楽活動となったのは、他の諸形態と同様である。特に緊急事態宣言の発令期間(東京都の場合は1月8日から3月21日、4月25日から6月20日、7月12日から9月30日の3期間)では数多くの演奏会・イベントが中止となっている。この期間は学校における部活動が制限されたところも多く、学校吹奏楽を中心としている吹奏楽ビジネス全体に大きなダメージを与えた。これは長期的には吹奏楽を経て様々な分野で活動することになる未来を担う人材の育成が中断されたことも意味しており、今後への影響が懸念される。

以上のようなことは2020年3月以降と同様なのだが、このコロナ禍のなかでどのような活動ができるのか、何をなすべきなのか、という模索も行われた。インターネット技術を用いたりリモートでの合奏や個人レッスン、プロ奏者による多重録音、遠隔での各種講習会などが特徴的だろう。また、感染予防策もある程度講じられたこともあり、プロ団体を中心に客席数を削減した上で舞台上での演奏活動も再開された。無観客で実施されたイベントでもライブ配信され遠方からでも視聴可能なものが増えた、というのも本年の大きな変化だろう。10月以降は感染者数も落ち着き復調の兆しが見えていたのだが、本稿執筆時点(2022年1月初旬)においてまたも大規模な感染拡大の動きがあり、まだまだ予断は許されない。

■実施されたイベントなど

コロナ禍において実施された注目すべき事項を列挙する。

3月20日に全日本アンサンブルコンテストが宮崎で開催。しかし1月7日に東京都中学校アンサンブルコンテストの中止が決定されていたため当該地区から代表が選出されない状態での実施となった。浜松では3月21日には昨年中止となった内容で「バンド維新」が、28日には「第33回全日本高等学校選抜吹奏楽大会」が関係者のみ入場可のライブ配信にて実施された。

石見音楽振興財団(高根)が藤重佳久を中心に4月より「Online吹奏楽指導者講習会(藤重塾)」を始動させ年間40回ほどのインターネットでの講座を開催。6月19日には大都市圏から若手プロ奏者を移住させた振興会メンバーで結成された「ハイブリッドウィンドオーケストラ」の第1回定期演奏会を開催しており、新しい地域吹奏楽の形を提示している。

本年は日本と関係の深いアメリカの作曲家アルフレッド・リードの生誕100年に当たっていたためそこにスポットを当てた企画が目立ち、5月2日には第22回「A.リード音の輪コンサート」が開催されている。

5月3日から5日にかけて行われた「いしかわ・金沢 風と緑の楽都音楽祭」において「古閑裕而の世界」に陸上自衛隊中部方面音楽隊が、「キッズプログラム アニメソングメドレー」に金沢大学吹奏楽団が出演したが、予定されていた航空自衛隊航空中央音楽隊の公演は中止となっている。同音楽祭は11月にも「マーチング&吹奏楽の祭典」が実施されており、そちらには小学校から一般まで8つのアマチュア団体が出演した。

5月15日と16日には「ジャパンバンドクリニック」が例年より会期を短くした縮小での開催。出演予定だった国立音楽大学が直前に緊急事態宣言の影響でキャンセルになるなど、コロナ

禍での実施の難しさも感じられた。

7月4日には陸上自衛隊中央音楽隊が創設70周年記念コンサートをサントリーホールで開催し西村朗の委嘱新作を初演。

各地区の吹奏楽コンクールは多くの会場が無観客での開催。県大会前日に急遽録音審査に切り替える県もあるなどその実施は困難であったが、全国大会まで実施された。8月5日と6日の全国高等学校総合文化祭「紀の国わかやま総文2021」吹奏楽部門も実施されている。

7月末より行われたオリンピック開会式・閉会式では1964年と異なり吹奏楽の生演奏は行われなかったが、録音により鈴木英史「イントラダグSSSS」、八木澤教司「ハート・イン・モーション」、星出尚志「北川木挽歌による幻想曲」が使用された。

11月、日本管楽合奏コンテストは全部門を動画審査で実施。13日と14日に神奈川県民ホールで行われた「第23回全日本高等学校吹奏楽大会in横浜」はビデオ出場の部とライブ出場の部に分けての実施。

12月より各地でアンサンブルコンテストが実施されるが、多くは無観客であった。夏のコンクールと合わせ収入が激減したため、福島県吹奏楽連盟はクラウドファンディングで資金を集めるなど各地の吹奏楽連盟が苦境に立たされている。

■中止されたイベントなど

一方で中止になったイベントもある。毎年恒例であった1月1日のアメリカでのローズ・パレードへの団体派遣は聖ウルスラ学院英智高校が予定されていたが中止となった。3月7日の「響宴」、4月30日の「浜松国際管楽器アカデミー & フェスティバル」は2年続けての中止。

5月1日には「東京国際音楽祭2021」において藤重佳久・土屋史人・植田薫の3指導者による「吹奏楽サミット」とThe Wind Waveによるコンサートが予定されていたが2度の延期を経て12月14日に「ジャズマラソン」として開催されたため実質的に中止となった。

7月12日から19日まで「第19回ワールド・サクソフォン・コンGRESS&フェスティバル会館2021」が予定されていたが2022年に開催延期とされた。

■その他の動向

そんな中で日本勢の海外コンクールへの挑戦が目立ち、6月13日にイタリアで行われた「第6回国際行進曲作曲コンクール・コンサートマーチ部門」で正門研一が第2位、7月4日に光ヶ丘女子高校が「North American Virtuoso International Music Competition」の動画審査にてプラチナ賞(グランプリ)を受賞、12月5日に「ワルシャワ国際吹奏楽指揮者コンクール」において甘粕宏和が第1位と演奏者が選ぶ特別賞を受賞している。

メディア関係では、FMヨコハマで10月より新番組「あなたと夜と吹奏楽」(DJ:手銭葵子)がスタート。一方、エフエムたちかわで放送されていた「スイスイ吹奏楽」(DJ:高橋宏樹)が12月23日をもって休止となった。

全日本吹奏楽連盟の7月の総会で「吹奏楽連盟作曲賞」の廃止とそれに伴う課題曲5の廃止が決定される、11月1日には東京佼成ウインドオーケストラが2022年4月1日より宗教法人立正佼成会から独立し一般社団法人化することを発表するなど、今後の日本の吹奏楽は様々なレベル・局面で転換点を迎えている。この時点で2年近くに及んでいるコロナ禍により、かねてよりの学校における部活動の在り方の見直しが一層進められた感もある。全日本吹奏楽連盟・前理事長でカリスマ的存在であった丸谷明夫が12月7日に死去したのは、一つの時代の終わりを象徴するものにも感じられた。